

第2回

本白根山・白根山（湯釜付近）火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 討議概要

1. 日時

令和2年11月30日（月）13時30分～15時30分

2. 場所 エテルナ高崎3F 凜

3. 委員

【委員長】

石川 芳治 （東京農工大学 名誉教授）

【学識委員】

小川 康雄 （東京工業大学 教授）（web 出席）

木川田 喜一 （上智大学 教授）（web 出席）

白木 克繁 （東京農工大学 准教授）

野上 健治 （東京工業大学 火山流体研究センター 教授）

平林 順一 （東京工業大学 名誉教授）

【委員】

別紙の通り。

4. 議事概要

4.1. 本白根山編

○保全対象について

- 万座ハイウェイは、冬季の万座温泉への唯一のアクセス路となるが、融雪型火山泥流の想定流下範囲に位置するため、被災する可能性がある。
- 万座温泉が孤立した場合の想定、対策・復旧工事に要する時間の考慮などから、関係機関と調整を図りながら避難計画との連携も考える必要がある。

4.2. 白根山（湯釜付近）編

○融雪型火山泥流の対応可能な規模の検討

- 数値シミュレーションによる施設効果検証の結果を考慮し、本白根山及び白根山（湯釜付近）における融雪型火山泥流の対応可能な規模は、火砕流 27 万 m³、積雪深 1.5m とする。
- 融雪型火山泥流による下流域への影響についても把握しておくことが望ましい。

4.3. 施設配置計画編

○ハード対策の施設配置計画

- 基本対策施設は降灰後及び火砕流後の土石流、融雪型火山泥流を対象として配置する。
- 緊急対策施設は、融雪型火山泥流を対象として配置する。
- 硫化水素が窪地等に滞留して基準値を超える場合があるので、注意すること。
- 具体的な施設計画を検討する際は、自然公園法等の法規制等が掛かっている箇所については関係機関と調整すること。

○ハード対策の優先度

- 基本対策の優先度は、本白根山・白根山（湯釜付近）の影響範囲、発生が想定される現象、保全対象、降灰厚が10cm以上となる可能性を総合的に勘案して設定する。実際に施工する際は、地元関係機関等と個別に調整することとなる。
- 緊急対策の優先度は、火山噴火の状況と保全対象を考慮して決定する。

○ソフト対策の施設配置計画

- 火山監視・観測カメラ、積雪深の観測機器、降灰量の観測機器を配置する。
- 積雪深については、スノーポール以外でも既往の構造物など目印になるものの高さを把握しておくことでも代用が可能である。

以上

第2回

本白根山・白根山（湯釜付近）火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会
委員名簿

氏名	出欠	所属、役職
水野 正樹	Web	国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 深層崩壊対策研究官
三輪 賢志	会場	国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 上席研究員
新出 祥文	Web	気象庁 地震火山部 火山監視課 火山監視・警報センター所長
山田 隆徳	会場	気象庁 前橋地方気象台 台長
清水 直幸	Web	気象庁 長野地方気象台 台長
竹下 誠	Web	林野庁 関東森林管理局 吾妻森林管理署長
堀内 洋	【欠席】	環境省 信越自然環境事務所長
岸 秀蔵	【代理】	環境省 上信越高原国立公園管理事務所 保護管理企画官
西澤 賢太郎	【欠席】	国土交通省 関東地方整備局 河川部長
笠原 治夫	【代理】	国土交通省 関東地方整備局 総合土砂管理官
新井田 浩	【欠席】	国土交通省 北陸地方整備局 河川部長
石田 和典	【代理】 Web	国土交通省 北陸地方整備局 地域河川調整官
坂田 達也	Web	群馬県 総務部 危機管理課長
大内 章義	Web	群馬県 県土整備部 砂防課長
布山 澄	【欠席】	長野県 危機管理部 危機管理防災課長
藤本 済	Web	長野県 建設部 砂防課長
黒岩 信忠	【欠席】	群馬県 草津町長
金原 拓真	【代理】 Web	群馬県 草津町 総務課
熊川 栄	Web	群馬県 嬭恋村長
伊能 正夫	【欠席】	群馬県 中之条町長
萩原 睦男	【欠席】	群馬県 長野原町長
内山 信行	【欠席】	長野県 高山村長
竹節 義孝	【欠席】	長野県 山ノ内町長
関 仁志	【代理】 Web	長野県 山ノ内町 総務課 危機管理室
木村 智行	Web	長野県 須坂建設事務所 所長(オブザーバー)

